

地域連携だより

第 50 号

Face to Face

役職等は全て取材日時点のものです。

- 「地域連携だより Face to Face」は、紙面版「顔の見える会議」をコンセプトとした、主に医療・介護・福祉などの、ケアを担う多職種向け情報紙です。地域の様々な情報が皆様に共有されることで、顔の見える関係構築や相互理解推進の一助となることを目指しています。
- 地域連携だよりは、地域包括ケアシステムの充実に資する取組を広く一般にも周知するため、市ホームページで公開しています。

令和 6 年度

釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会開催

5月21日、沿岸広域振興局を会場に「令和6年度釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会」が開催されました。この協議会は、在宅医療連携拠点チームかまいしの事業を推進するための、多機関・多職種の委員で構成される会議で、当市の地域包括ケアシステムの充実に関する取組方針のコンセンサス形成の場です。

会議では例年、県の担当課との顔の見える関係づくりのために、医療政策室と長寿社会課をオブザーバーとしてお招きしています。医療政策室からは、県内の在宅医療の現状、県保健医療計画及び令和6年度の県の関連施策等について説明がありました。

チームかまいしの令和5年度の活動報告では、在宅医療・介護連携推進事業による取組のほか、国のモデル事業を活用して社会的処方に取り組んだ「釜石市包括的支援の仕組みづくり事業」についても報告があり、活発に意見交換がなされました。また、令和6年度の活動推進方針について、拍手をもって承認されました。

～主な意見要旨（アンケート記載含む）～

- ▶多職種連携がこれだけ進んでいることに改めて気付かされ、素晴らしいと思う。当院にも生かしていきたい。
- ▶関係機関の皆さんが同じ目標に向けて取り組まれていることが印象的で、長く顔の見える連携を続けてきたからこそその強みだと感じました。▶在宅医にとってはケアマネが大事。連携のフレーム（インフラ、例：水道管）が出来てきているのはわかったが、それが機能している（例：水が流れている）実感がほしい。▶発言者は状況を理解して的確な発言をしておりためになった。本事業に関わっている方は大変であるが、釜石圏域の医療を守る為に知恵を出し合って頑張っていたいただきたい。

医療介護福祉の職能団体の代表や市内5病院の各院長などが委員として一堂に会する機会です



岩手県、保健所、中核病院連携室、庁内関係課長など多数がオブザーバー参加するコンセンサス形成の場です



令和6年度釜石市保健事業と介護予防の一体的実施事業

シルバ(知る場)リンピック開催

令和6年度のシルバリニックが、5月29日の平田地区生活応援センターでの開催を皮切りに市内6カ所で開催されました。昨年度に引き続き2年目の開催となります。

対象は、100歳体操を1年以上続けている団体参加者と、令和5年度の健診で体格指標(BMI)が18.5未満で口腔機能や食に関する質問で所見があった方です。

シルバリニックは、自分自身の身体状況を把握し、介護予防活動に対するモチベーションの維持及び向上を図るとともに、地域で活動する楽しみや充実感を体験することを目的としています。全体では60~90代の年齢層の方々が参加され、どの会場も和やかな雰囲気の中で、お互いに励まし合う様子等が散見されました。

シルバリニックは、釜石リハビリテーション療法士会、岩手県歯科衛生士会釜石支部、釜石市体育協会、釜石市社会福祉協議会のご協力をいただいております。多職種連携のネットワークを活かした運営がなされています。



地区名	団体数	いきいき100歳体操 主な活動場所
釜石地区	7	釜石公民館、松原地区コミュニティ消防センター、天神復興住宅、只越1号棟2階集会所、燿石集会所、東前集会所、大平集会所
平田地区	5	平田公民館、平田復興住宅、上平田ニュータウン集会所、上平田集会所、尾崎白浜集会所
中妻地区	3	双葉小学校地域連携施設、源太沢集会所等
小佐野地区	9	小佐野コミュニティ会館、野田地区コミュニティ消防センター、小川ふれあいセンター、野田団地分館、南野田集会所、いこの家、ひまわり集会所、中小川集会所
甲子地区	4	甲子公民館、砂子渡公民館分館、大松地区コミュニティ消防センター、大畑団地集会所
鶴住居地区	11	鶴住居公民館、鶴住居2号棟集会所、片岸集会所、箱崎集会所、桑の浜集会所、室浜集会所、日向復興住宅集会所、両石県営AP集会所、外山集会所、新川原集会所、新田神ノ沢集会所
栗橋地区	6	栗橋公民館中村分館、橋野ふれあいセンター、砂子畑さんふれあいセンター、沢田基幹集落センター、上栗林集会所
唐丹地区	5	唐丹公民館、本郷地区コミュニティ消防センター、片川集会所、荒川集会所

※詳細については、各地区生活応援センターでご確認いただけます。

地域づくりによる介護予防 いきいき100歳体操

いきいき100歳体操は、2002年に高知県で開発された介護予防を目的とした運動です。イスに座って自分に合った負荷をかけて体操することで、柔軟性、筋力、バランス能力を高めることができます。

市では生活支援コーディネーター(市社協)の協力も得て、住民主体の「通いの場」の充実を目指した動機付け等の支援を行っています。8月現在で50団体(約630人)の方々が活動しており、10月には体力測定も兼ねた「いきいき100歳体操交流会」が予定されています。



問い合わせ先：地域包括支援センター TEL22-2620

生涯学習まちづくり出前講座 楽しく学ぼう！薬剤師さんのお薬教室

釜石薬剤師会では、地域包括ケア推進本部との連携による出前講座を実施しています。5月23日には鶴住居公民館事業の一環で講座が開催されました。



釜石薬剤師会 金澤先生

今回の講座では、釜石薬剤師会の金澤先生が「みんなの薬の学校・健康はカッコいい!!」と題して講師を務めました。

体と心を健康に保つための「健康の3原則」や「心の健康5か条」、また、正しい薬の飲み方について、寸劇(協力：地域包括ケア推進本部事務局2名)を交えてのお話があり、受講者の皆さんからは「こういう講座に、また参加したい」「いろいろお話を聞けて良かった」とのお声もいただきました。



釜石市生涯学習まちづくり出前講座 QRコード

チームかまいし《一次連携》開催しています

チームかまいしの連携手法の基盤は、一職種または一機関との一次連携（ヒアリング、情報交換、相談等）です。

ここ数年の各事業アンケートなどで、コロナ禍の影響でこれまでに築いてきた顔の見える関係性が途切れつつあるという複数の意見を頂戴していたこともあり、初心に帰り、一次連携を開催しています。

また、10月には、病院連携室と保護係との情報交換会（二次連携）を予定しています。

～令和6年度の主な一次連携（予定含む）～

- 4/24 釜石薬剤師会 事業相談と情報交換
- 5/31 県立釜石病院地域医療福祉連携室
情報交換会（ヒアリング）
- 7/10 地域福祉課保護係（生活保護の担当係）
ヒアリング、二次連携に向けた打合せ
- 9/9 釜石薬剤師会
R6 薬局起点の社会的処方連携パスの打合せ



5/31 県立釜石病院との情報交換会

《チームかまいしの連携手法》

- 一次連携…一職種または一機関を単位としたヒアリング、事業打合せ、反省会等
- 二次連携…チームかまいしが仲介する複数職種の連携。課題解決のための事業
- 三次連携…コンセンサス形成の場。多職種が一堂に集う場。在宅医療連携拠点事業推進協議会等

※上記の場を活用して、課題の分類や共有、企画の調整や役割分担など、課題解決支援を行っています。

◆◆◆釜石医師会からのお知らせ◆◆◆

R6 健診を起点とした社会的処方連携パス(釜石市つながるパス)の運用について

◆医療機関の皆様へ

釜石医師会では、昨年同様、釜石市からの委託により健診を起点とした社会的処方連携の取組を実施いたします。各医療機関の皆様におかれましては、以下の通り、ご協力をお願い致します。

- ▶市の健診受診率向上に向けた取組
ポスターやチラシを活用した受診勧奨をお願いします。
- ▶つながるパスでのアセスメント
記載後のつながるパスは、医師会事務局が回収します。
- ▶協力医師を対象とした事後アンケート
3月にアンケートを実施しますので回答をお願いします。

釜石医師会事務局 Tel.0193-22-7875

健診起点の社会的処方連携パス実施結果

	R4	R5
パス送付数	1,514人	1,436人
回収数	110人	122人
要支援者数	20人	7人
協力医師数	11人	13人
要支援者のニーズ	栄養相談、減塩チャレンジ	栄養相談、血圧教室、結果説明会

社会的処方連携パス(つながるパス)は、市の健康診査でC判定だった方に送付されています。

市健診受診率	R2	R3	R4
	28.6%	34.3%	41.0%

在宅医療連携拠点チームかまいし

地域包括ケア推進本部事務局に**保健師が配属**となりました



地域包括ケア推進アドバイザーの寺田先生と連携コーディネーター×4

令和6年4月より、地域包括ケア推進本部事務局に、初の保健師1名が配属となりました。

これまで当事務局では、専門分野は専門職が担うことを前提に、どの職種にも属さない第三者の公平な視点で、各機関（職種）の連携課題の共有や解決策の提案などにより課題解決を支援してまいりましたが、今回の統括的な役割を担う保健師の配置によって、よりスピード感を持った行政施策の展開が期待できます。多職種の皆様におかれましては、今後とも、ご指導ご鞭撻の程、宜しく申し上げます。

かまいしケア・ステーション 社会福祉法人 翔友

釜石市上中島町 4-2-31
TEL : 27-5688前列：野田理事長、及川施設長
後列：スタッフの皆さん

★施設の概要を教えてください。

令和6年4月に、上中島町に開設した生活介護事業所※1です。スタッフは施設長兼管理責任者と生活支援員4名の計5名です。

※1 生活介護事業所：障がいのある人の自立の促進、生活の改善、社会参加の支援を目的に、食事、入浴、排泄などの介助サービスを提供します。

★サービスの内容を教えてください。

リフト付きの入浴施設（ミスト温浴機器も有）、多目的ホールなどを備えており、施設内で食事や入浴といった日常生活を支援しています。また、余暇時にはレクリエーション活動の場を提供しており、主に、ボッチャやペタンクなどの軽運動のほか、カラオケ、パズル、塗り絵などの創作活動を行っています。

障がいのある方（難病の方を含む）であれば、どなたでもご利用できます。

《及川施設長から多職種の皆さんへ一言》

現在は70代から80代の方々の利用が多いので、介護関係事業所などの方々との連携を深めていきたいと思っております。始まったばかりですので、慣れていくのに精一杯ですがよろしくお願いいたします。

釜石広域基幹相談支援センター NPO 法人 Plus One Happiness

★施設の概要を教えてください。

市町の委託を受けて、令和6年4月に定内町に開設した基幹相談支援センターです。スタッフはセンター長（社会福祉士、精神保健福祉士、主任相談支援専門員）、保育士1名、支援員2名の計4名です。

★サービスの内容を教えてください。

障がいのある方、疑いのある方、また、そのご家族の相談支援を行っています。当センターでは、以下の3つの機能を持っています。

1. 相談支援事業所：障がい者向けのケアマネジメントと伴走支援を行います。
2. 基幹相談支援センター：解決の難しい個別の困難ケースに対応するほか、地域の支援機関のサポートや体制強化に向けた取組を行います。
3. 障がい児支援：放課後や長期休みに利用できる日中一時支援を行います。

《高橋センター長から多職種の皆さんへ一言》

障がい者領域、高齢者領域の縦割りだけで支援を完結できない事も多くみられるようになってきました。当センターは地域の障がい者支援の“核”として、医療・介護・教育・保育・住宅等、様々な隣接領域と協働させていただきながら、障がいの有無に関わらず住みよい地域づくりに寄与していけたらと考えています。まだ開設したばかりですが、よろしくお願いいたします。

釜石市定内町 1-8-10
TEL : 21-1156釜石広域基幹相談支援センター
高橋センター長（右）とスタッフの皆さん

【発行】在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号 釜石市地域包括ケア推進本部事務局

TEL 0193-55-4536

FAX 0193-22-6375

E-mail kea@city.kamaishi.iwate.jp

【HP】<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikihoukatukea/zaitakuiryourenkei/>【FB】<https://www.facebook.com/teamkamaishi/>

QRコード読み取りでスマホからアクセスできます→

ホームページ

Facebook

